平成24年11月10日発行　毎月1回10日発行　第65巻第11号

日本消防

●第23回全国消防操法大会開催

11
2012

日本消防　CONTENTS

2012 11
Vol.65　No.11

表紙写真説明

「石山寺」

石山寺は、琵琶湖から流れる瀬田川の西岸の伽藍山の麓の景勝地にあり、天平19年良弁僧正を開基（創立者）として開かれた寺院です。京都の清水寺や奈良の長谷寺と並ぶ観音霊場で西国三十三箇所観音霊場第13番札所となっており参詣者も多く、また、文学作品の「蜻蛉日記」や「更級日記」、「枕草子」などにも登場し、「源氏物語」の作者でもある紫式部ゆかりの花の寺としても著名であります。

（滋賀県大津市）

日中韓消防協会会議を開催

平成24年11月13日（火）　於　ホテルオークラ

平成24年度　消防団長等幹部海外消防事情調査

平成24年10月９日（火）～10月17日（水）　アメリカ

シアトル・パイオニアスクエア・ファイアーメモリアル

平成24年秋の叙勲伝達式（消防関係）

平成24年11月15日（木）　　於　ニッショーホール

平成24年秋の褒章伝達式（消防関係）

平成24年11月13日（火）　　於　スクワール麹町

巻頭言

「山梨県の風土と消防団員確保に向けての取り組み」

山梨県消防協会　副会長　茂木　満彦

本県は四囲を3,000m級の山々に囲まれ、山襞（やまひだ）の沢筋は甲府盆地に流れ込み、富士川となって駿河湾に注ぎ、あるいは山中湖を水源とする桂川は、谷間の集落を縫いながら相模川となって相模湾に注ぎ、また、笠取山、柳沢峠から流れ込む丹波川は奥多摩湖に注ぎ、多摩川となって東京湾に注いでおります。

このような急峻な地形と盆地特有の寒暖の差がはっきりとした気候は四季折々に素晴らしい景観が広がり、私達の目を楽しませてくれます。

しかし、このような急峻な地形は一度大雨が降ると水が河川に一気に流れだし、山崩れ、洪水が発生する危険性を孕み、我が県の先人達の生活はこうした災害との闘いでもありました。

本県の県土全体の約３分の１にも及ぶ県有林は、明治末期に多大な被害を及ぼした水害が相次いだことから、明治44年に県内の御料林約16万4000haが山梨県に御下賜された恩賜林が基になっております。

また、武田信玄公が本県において神と崇められているのは戦国時代に覇を唱えたからだけでなく、こうした災害を防ぐため、信玄堤と呼ばれる大規模な治水システムを築くなど、治水整備（川除（かわよけ））に大きな功績があったからであります。この治水システムは江戸時代には甲州川除術として紹介され、全国に奨励されたほどです。

さて、前置きが長くなりましたが、本県の消防団員は15,344人で人口一人当たりの消防団員数では全国で上位から５本の指に数えられます。これは沢筋ごとに集落があり、いったん災害が発生すると、交通インフラが未整備な時代には他地域からの迅速な応援が期待できず、まさに「自分たちのまちは自分たちで守る」という精神が受け継がれてきたものと思われます。

また、本県において、農村集落における「結（ゆい）」の制度や庶民金融の原型である「無尽（むじん）」が広く行われてきたことなど、相互扶助の精神が根強く息づいてきたことも一因と言えるでしょう。

しかし、社会経済の進展に伴い、就業構造が大きく変化し、本県では消防団員の約８割が被雇用者となっており、被雇用者率は全国平均を上回っております。また、通勤圏、生活圏が広域化し、地域社会が大きく変容してしまいました。

こうしたことから、消防団員の数は近年減少傾向にありますが、本県は切迫性が指摘される東海地震をはじめ、富士山噴火等による大規模災害の発生が想定されている

ことから、こうした大規模災害の発生の際、人命救助などに極めて重要な役割を担い大きな動員力と即時対応力を持つ消防団の団員確保は大きな課題であります。

就業構造の変化や地域社会の変容という状況に鑑みるならば、一地域や個々人の「相互扶助の精神」に期待するというだけでは限界があります。

消防団員を確保していくためには、社会全体で消防団を支えるという仕組みが必要と考えて、このため協会では、県や市町村と連携して、次のような取り組みをして参りました。

まず、消防団員を確保し、消防団の活性化を図るためには、雇用主の理解と協力が必要であると考え、「消防団員が入団しやすい、消防団活動がしやすい職場環境の整備」について商工・経済団体に要請活動を行い、それぞれの団体の会報に「消防団確保対策の必要性」「消防団員が入団しやすい、消防団活動がしやすい職場環境の整備」「消防団協力事業所表示制度の概要」などの記事を掲載していただきました。

また、昨年は消防団員確保のモデルとなる事業を実施する市町村として甲府市と南アルプス市を指定し、甲府市ではこの事業により今年度から市内の小売店や事業所が消防団員を対象にしたサービス提供を行う「甲府市消防団員サポート事業」を実施しております。

南アルプス市で実施されている「サポート事業」については、「日本消防」の本年７月号にも掲載されております。

さて、本県では先に述べましたとおり、人口当たりの消防団員数では全国上位から５本の指に入りますが、その反面、本県の女性消防団員は、平成24年４月１日現在で59人に過ぎません。

他都道府県では女性消防団員数が年々増加していると聞いておりますが、本県では、消防団員は男性というイメージがまだまだ強く、女性消防団員の加入について、入団を勧誘される立場の女性のみならず、入団を勧誘すべき消防団にあっても消極的な団が多く、女性消防団員数は伸び悩んでいる状況にあります。

男女共同参画社会の中、災害現場においても女性の役割は数多くあると思いますが、県が開催した消防団員確保対策検討会では、女性が消防団員として活動していくためには、受け入れ態勢の整備や男性以上に家族、職場の理解と協力が必要であるなどの課題が浮き彫りにされました。

消防団確保対策、女性消防団確保対策を通して明らかになったのは、消防団固有の問題ではなく、社会全体の問題であるということでした。

山梨県消防協会も消防団員確保のため、また、女性消防団員が入団しやすい環境整備のため、関係機関とも協議をしながら、力を尽くしていきたいと思っています。

日消の動き

第23回全国消防操法大会

㈶日本消防協会　会長　秋本　敏文

平成24年10月７日、第23回全国消防操法大会は、朝のうち少雨がありましたが、関係の方々のご協力を頂き、無事盛況のうちに開催することができました。観客はおよそ１万人、消防団の全国ビッグイベントとしてすっかり定着したようです。各消防団は、積み重ねた訓練の成果を存分に発揮して白熱の操法を展開し、優劣つけ難い状況でしたが、ポンプ車の部で岡山県和気町の、小型ポンプの部で長崎県壱岐市の消防団が栄えある優勝をされました。心からおよろこびを申しあげますとともに、出場団すべてのご健闘に心から賞讃の言葉をさしあげたいと思います。

前日、恒例になった激励交流会を開催しました。消防応援団の菅原文太さん、水前寺清子さんなどのご参加を頂いて大いに盛り上がったのですが、特に今回の目玉は、消防団応援歌のご披露でした。明年の消防団120年等の記念大会のことを考えながら何か新しい消防団応援歌をつくりたいと思って、全国の消防団歌を集めてみたりしたのですが、やはり新しい歌を皆さんに覚えて頂くのはむつかしそうですので、誰でも知っている水前寺清子さんの「三百六十五歩のマーチ」の替歌でやってみることにし、歌詞を公募しました。全国から157編の応募があり、水前寺さんのほか、元歌の作詞家、作曲家のご遺族にも加わって頂いて審査した結果、満場一致で選ばれた歌を「消防団　三百六十五歩のマーチ」として、当日皆さんに歌って頂きました。作者は、宮城県栗原市の後藤さんご夫妻ですが、ご主人は消防職員、奥さんが消防団員というこのような歌にはピッタリの方です。明年の東京ドームでの消防団120年等記念大会では、是非皆さん大きな声で歌って頂きたいですね。

操法大会では、操法終了後、消防団だけによる震災対応訓練をして頂きました。大規模な地震を想定して、発災直後から消防団が出場し、団の指揮本部の指示のもと、消火、救急、救助など消防側の活動として想定されるすべてを消防団多機能型車などを使用して極めて手ぎわよくやって頂きました。この種の活動は、これまでどちらかといえば常備消防が主役というイメージが強かったでしょうが、今回の訓練は消防団だけです。これが全国の消防団の皆さんの眼前で行われたのです。17年前、私は消防庁長官の時、「阪神淡路」の後に創設した緊急消防援助隊の全国合同訓練を東京消防庁などのご協力を頂いて初めて実施したのですが、今日、消防団だけでこれ程のことができるようになったのは感慨深いものがありました。大規模地震や頻発する交通事故などを思いますと、消防団のこのような活動は国民にとって本当に心強いと思います。

今年の大会は、このような将来の消防につながる内容をもった充実した大会だったと思います。

第23回全国消防操法大会開催

㈶日本消防協会

平成24年10月７日（日）、第23回全国消防操法大会が、東京臨海広域防災公園において、約1万人が参加し、盛大に開催されました。

「消防団の甲子園」とも呼ばれるこの大会は、２年に１回開催される大会で、都道府県大会の予選を勝ち抜いた47消防団が、ポンプ車の部、小型ポンプの部の２部門に分かれて出場し、速さ、正確性、規律の正しさを競うものです。

今回は、東日本大震災後の初の全国大会という事で、秋雨の降る中、例年にも増して熱い戦いが繰り広げられました。

また併せて、消防団120年　消防防災・物産展として、地域総合防災力の必要性を再度徹底し認識を高めてもらうための防災展と、東北地方を中心とした物産展が開催されました。

日　　時	平成24年10月７日（日）９時00分から
場　　所	東京都江東区有明３丁目８番35号 東京臨海広域防災公園
主　　催	消防庁、財団法人日本消防協会
共　　催	東京臨海広域防災公園
協　　力	東京都、社団法人東京都消防協会、 東京都消防長会、東京消防庁
参加者数	約10,000人

開会式

大会は、総括指揮者である兵庫県福崎町消防団　後藤健廣団長を先頭とした出場隊の堂々たる入場行進で始まりました。

開会式は、日本消防協会旗入場、日本消防協会秋田副会長の開会宣言の後、国旗掲揚を行い、東日本大震災で犠牲になられた多くの方々のご冥福をお祈りし参加者全員で黙とうを捧げました。

そして、前回大会優勝チーム、鳥取県 江府町消防団（ポンプ車の部）、兵庫県福崎町消防団（小型ポンプの部）からの優勝旗の返還後、稲見哲男総務大臣政務官と日本消防協会秋本敏文会長が、主催者挨拶を行いました。

続いて芝博一内閣官房副長官（内閣総理大臣代理）、北村吉男全国消防長会会長からの祝辞、宮嵜泰樹東京都危機管理監（東京都知事代理）から、歓迎の言葉がありました。本大会の審査長の有岡宏消防大学校長より、競技上の注意事項が述べられた後、最後に、各都道府県出場隊を代表して、鳥取県米子市消防団　本田卓巳班長による力強く、そして胸を熱くさせる選手宣誓が会場に響き渡りました。

開会宣言　日本消防協会秋田副会長

優勝旗の返還

主催者挨拶　稲見総務大臣政務官

主催者挨拶　秋本日本消防協会会長

祝辞　芝内閣官房副長官

祝辞　北村全国消防長会会長

歓迎の言葉　宮嵜東京都危機管理監

競技上の注意事項　有岡消防大学校長

選手宣誓文

宣誓
東日本大震災から１年半経ち、復興も徐々に進んできています。
あの震災で消防団の役割、重要さ、再確認しました。
全都道府県が参加する、この大会で消防団の輪を広め、消防団全員で今大会、そして地元を盛り上げましょう。
消防の基本である、操法をいままで訓練してきました。
苦しい時は、仲間同士で励まし合い、うれしい時は、仲間同士でよろこび合い、そこで私達チームには、かけがえのない絆が生まれました。
この強い絆と、いままで支えてくださった地域の方々、指導者、そして家族に感謝し、その恩返しを全国大会というすばらしい舞台で、返すとともに、感謝と絆を胸に全身全霊、正々堂々と操法することを誓います。

平成24年10月７日
選手代表　鳥取県米子市消防団　班長　本田卓巳

選手宣誓　鳥取県米子市消防団　本田班長

操法競技

午前10時より操法競技が開始され、ポンプ車の部24隊、小型ポンプの部23隊に分かれ、熱戦が繰り広げました。

○ポンプ車の部

操法開始前

ホース延長

ホース延長

放　水

○小型ポンプの部

操法開始

吸管搬送

エンジン始動

放　水

消防団による震災対応訓練

操法競技終了後、消防庁と財団法人日本消防協会が貸与、交付している標準的な救助活動用の資機材を搭載した車両を使用した震災対応訓練が行われました。

今回は、東日本大震災の教訓を踏まえ、東京都向島消防団、深川消防団、城東消防団、青梅市消防団、埼玉県坂戸市消防団、千葉県銚子市消防団、茨城県取手市消防団により、火災への出動はもとより、地震や風水害などの大規模な自然災害などあらゆる場面で、住民の避難誘導や救出作業等の消防団が担う幅広い活動の重要性と、地域防災に果たす役割を広くアピールしました。

避難広報

エンジンカッターによる切断

チェーンソーによる切断

指揮本部運営

表彰式

有岡審査長から競技審査結果が発表され、引き続き表彰式が執り行われました。ポンプ車の部、小型ポンプの部とも優勝隊（各部１隊）には、消防庁長官賞と日本消防協会会長賞が、準優勝隊（各部３隊）・優良賞隊（各部６隊）には日本消防協会会長賞が授与され、最後に日本消防協会会長特別賞として、優秀選手賞が各操作員の合計９名に授与されました。

ポンプ車の部　優勝隊　岡山県　和気町消防団

小型ポンプの部　優勝隊　長崎県　壱岐市消防団

準優勝隊各3隊

優秀選手　各操作員

第23回全国消防操法大会結果

消防庁長官表彰・日本消防協会会長表彰（優勝隊　各部１隊）

ポンプ車の部
　岡山県　　和気町消防団

小型ポンプの部
　長崎県　　壱岐市消防団

日本消防協会会長表彰（準優勝隊　各部３隊）

ポンプ車の部
　広島県　　福山市消防団
　東京都　　日の出町消防団
　群馬県　　沼田市消防団

小型ポンプの部
　高知県　　本山町消防団
　福岡県　　福岡市東消防団
　静岡県　　静岡市消防団

日本消防協会会長表彰（優良賞隊　各部６隊）

ポンプ車の部

愛知県	大府市消防団
滋賀県	野洲市消防団
千葉県	君津市消防団
石川県	かほく市消防団
鹿児島県	中種子町消防団
岐阜県	恵那市消防団

小型ポンプの部

茨城県	阿見町消防団
鳥取県	米子市消防団
三重県	鈴鹿市消防団
長野県	松本市消防団
秋田県	三種町消防団
埼玉県	小鹿野町消防団

日本消防協会会長特別表彰（優秀選手賞　各操作員１名）

ポンプ車の部

指揮者	片山　俊彦	（宮城県登米市消防団）
１番員	浅利　光輝	（広島県福山市消防団）
２番員	三好　教彦	（愛媛県伊方町消防団）
３番員	新田　章博	（岡山県和気町消防団）
４番員	吉多　達也	（石川県かほく市消防団）

小型ポンプの部

指揮者	新堀　一利	（秋田県三種町消防団）
１番員	田村　悠人	（秋田県三種町消防団）
２番員	林　　聡	（富山県高岡市消防団）
３番員	原　　誠一	（徳島県阿南市消防団）

閉会式

表彰式終了後、引き続き閉会式が行われ、石田詔夫東京都消防協会会長のご発声により「万歳三唱」を行った後、日本消防協会豊永副会長の「閉会宣言」により、第23回全国消防操法大会の全日程を終了しました。

万歳三唱　石田東京都消防協会会長

閉会宣言　日本消防協会豊永副会長

東京消防庁音楽隊・カラーガーズ隊

東京消防庁音楽隊（隊長　五十嵐 清）のご協力により、式典中の演奏はもちろん、お昼の休憩にはカラーガーズ隊も加わり、その演技と演奏で大会に花を添えて頂きました。

消防団120年　消防防災・物産展

㈶日本消防協会

隣接会場では、消防団120年　消防防災・物産展が開催されました。

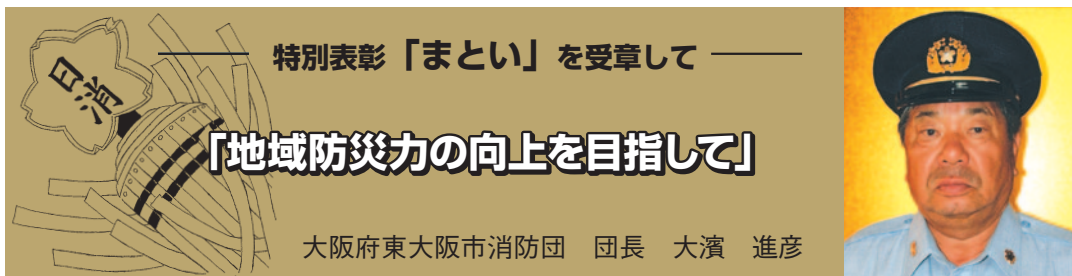
会場の防災展エリアでは、29の防災関係企業・団体が出展し、防災力向上に資する最新消防機器や防災機器、防災グッズの紹介等が行われ、物産展エリアでは、東北や関東近県、操法大会出場の消防団等19の団体が出展し、地域の特産品や自慢の商品などが販売されました。

休憩所テント内では、来年迎える消防団120年の記念事業広報として、「自ら守る！消防団120年」の映像を放映し、消防団の歴史・活躍などを紹介しました。

また、日本防火協会による炊き出し訓練や、山形県消防協会の協力を得て大曾根餅つき保存会の餅つきパフォーマンスが行われ、非常食や用意された餅を配布するとともに消防育英会への募金も呼び掛けていただきました。

特別表彰「まとい」を受章して

「地域防災力の向上を目指して」

大阪府東大阪市消防団　団長　大濱　進彦

はじめに

平成24年２月23日、日本消防会館（ニッショーホール）で挙行されました「第64回日本消防協会定例表彰式」におきまして、日本消防協会　高木繁光会長から消防団として最高の栄誉であります特別表彰「まとい」を拝受いたしました。

全国2,300団余りの消防団の中から、東大阪市消防団がこの栄誉ある表彰を受章できましたことは、われわれ消防団員にとりましてはこの上ない慶びであり、誇りとするところであります。

これもひとえに、東大阪市民の皆様の消防団に対するご理解とご協力であると深く感謝いたしますとともに、郷土愛護の消防団精神を育ててきた先人達の努力と市民の安全安心を守るため、昼夜を分かたず活動している現消防団員とご家族の皆様に対しまして、心からお礼申し上げます。

東大阪市の紹介

東大阪市は大阪平野のほぼ中央部に位置し、面積は61.81㎢（東西が11.2㎞、南北が7.9㎞）、人口は約51万人で、東は生駒山を隔てて奈良県生駒市、西は大阪市、北は大東市、南は八尾市と接しています。

東大阪市には、ラグビーの聖地 花園ラグビー場があり、年末年始は全国各地から高校ラガーマンが集まり賑わっています。また、世界に誇る技術を持った中小企業が集積し、歯ブラシから新幹線、そして人工衛星“まいど１号”まで、何でもつくれる「モノづくりのまち」として全国に名を馳せています。

東大阪市消防団の紹介

東大阪市消防団は、昭和42年に旧枚岡市、旧河内市、旧布施市の３市が合併し現在の東大阪市が誕生したことに伴い、３市の消防団も統合し東大阪市消防団が発足しました。消防団は、団本部及び３方面隊（15分団）を組織し、522名（平成23年４月１日現在）の団員が、日々地域防災の要として活躍しています。

東大阪市消防団の活動

東大阪市消防団は、定例の活動を中心に、１年を通じて様々な活動を行っております。１月の消防出初式におきましては、徒歩部隊

消防出初式

林野火災総合訓練

中河内地区支部総合訓練

や車両部隊の行進、規律訓練や消防ポンプ操法等を行い、消防団の団結力・行動力・統制力を披露しております。

２月には消防団員としての知識・技術の向上を図るため、生駒山中におきまして林野火災総合訓練を実施し、山火事発生に備え、防ぎょ体制の確認を行なっております。

３月と９月の全国火災予防運動では、地域住民の皆さんに消火器の使い方など、火災発生時の初期対応につきまして細かく指導するとともに、東南海・南海地震等の大規模災害に備え、防災意識の普及啓発等に努めておるところでございます。

４月には恩智川水防訓練に参加し、水害発生に備え、防ぎょ活動及び水防技術の研さんに努めております。

６月には全消防団員を対象に消防団員教養訓練を実施しまして、消防ポンプ操法、ロープ結策、心肺蘇生法などの基本技術の習熟に努めております。

８月の大阪府中河内地区支部総合訓練や９月の大阪府消防大会では、全国大会を目指して消防ポンプ操法競技に出場して、体力と技術を練磨し、地域に根ざした防災の要として、消防団員の士気高揚を図っております。

このような活動を通し、東大阪市消防団はその課せられた責務を深く肝に銘じ、各種災害から住民の生命、身体、財産を守るため、火災予防の啓発、消防技術の練磨に努め、地域防災力の向上を目指しているところでございます。

おわりに

この栄誉ある特別表彰「まとい」の受章にあたり、格段のご配慮とご尽力を賜りました日本消防協会をはじめ、大阪府、大阪府消防協会並びに消防防災関係各位の皆様に心よりお礼申し上げますとともに、今後益々のご発展とご健勝を祈念して受章にあたりましての挨拶とさせていただきます。

大阪府消防大会

第64回日本消防協会定例表彰式

「自助・共助」地域との連携を密にした消防団活動

大津市消防団　団長　目片　勇

１．大津市の紹介

大津市は、滋賀県の県庁所在地であり、本州のほぼ中央にある近畿の水瓶とも言われる琵琶湖国定公園の西南端に位置し、比良山系・比叡山系などの緑豊かな山並みが連なる南北45.6km、東西20.6kmと南北に細長い地形です。

また、琵琶湖の表玄関であることから、その恵みを受け天智天皇の大津京以来、農業・水産業を育み、交通を発達させ、豊かな文化と数多くの文化財が残っており、琵琶湖をはじめとして世界文化遺産に登録された比叡山延暦寺や、「源氏物語」の作者である紫式部ゆかりの花の寺・石山寺など、それぞれの観光名所では、四季のおりなす行楽シーズンになると国内外の観光客でにぎわいます。

水防訓練

２．大津市消防団の概要

大津市消防団は、昭和22年８月に警防団から機構改組により確立、現在は１団本部、３方面隊、６地区35個分団および団本部直轄の１本部分団で組織構成され、条例定数1,313名、実数1,274名（平成24年10月１日現在）の団員が所属し、市民の安心、安全確保を目指し活動をしています。

また、平成18年３月には、隣接した滋賀郡志賀町との市町合併により志賀町消防団と大津市消防団が統合し、本市に最も大きな被害をもたらすと危惧している「琵琶湖西岸断層帯地震」をはじめとする各地震災害により迅速に対応すべく、平成20年度に３方面隊制を導入し各地区を越え円滑な活動ができる指揮体制を確立しました。

消防団長査閲

文化財消防訓練

次に、装備については、指揮車１台、救助資機材搭載型車両１台、ホンプ車35台、小型動力ポンプ付積載車31台、小型ポンプ60台を配備しています。

３．大津市消防団の活動

各分団単位での基本訓練はもとより、各地区、各方面隊での連携訓練をはじめとする災害発生時の対応訓練や地域と密着する自主防災組織との地域防災訓練、さらには、常備消防との合同訓練により市民の安全確保に努めています。

また、大津市消防団（団本部）には直轄の本部分団を置き、既存分団員（女性団員を含む。）と各地区から選抜された幹部候補者の育成のため２年間の派遣団員制度を採っており、本年度で12期目となる11名が所属し、消防学校で行われる消防団員中級幹部教育や月々の研修・教育訓練に励んでいます。余談になりますが、私も第１期派遣団員であります。

４．大津市消防団女性消防団員の活動

女性の特性を生かした新鮮な消防団活動を展開することを目的として平成９年４月に導入した女性団員は、本部分団員として現在12名（カラーガード隊員を含む）で、毎月１回の救助資機材搭載型車両の点検や小型動力ポンプの運用訓練のほか、各種消防行事において防火広報や各種消防団に関する大会、式典等での広報活動をはじめ後方支援活動に邁進し、消防団と地域住民との連携強化に活躍しています。

５．おわりに

本年４月から消防団長に任命され、その重責を深く認識し、今後複雑化、広域化する各種災害に対応するとともに、社会・経済・環境の変化に伴う消防団のあり方について現状を踏まえながら諸先輩方の培ってこられました歴史を大切にし、消防団員が一丸となり市民が安心して安全に暮らせるまちづくりに尽力していきたいと考えております。

同じ志を持つ一人として、最後に文末ではございますが、東日本大震災で消防団員の責務として自らの危険を顧みず活動中に殉職された方々のご冥福をお祈りしますとともに、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

消防出初式一斉放水

「安心で安全な地域づくりを」

那須烏山市消防団　団長　**興野　一美**

1　那須烏山市の紹介

平成17年10月に旧南那須町と旧烏山町が合併し市制７年目を迎えました。県都宇都宮市の東部約30㎞に位置し、清らかな一級河川「那珂川」「荒川」が流れる自然豊かな山間に位置し、450年の伝統を誇る国の重要無形民族文化財「山あげ祭」や市民ボランティアによる「いかんべ祭り」等、伝統や文化が育む、人口約３万人弱の小さな市です。

2　那須烏山市消防団の紹介

合併した当初は旧町の消防団の組織を残し、平成18年４月から２支団17分団制になりました。しかし、緊急時の連絡体制の効率化や消防活動の強化を図るため、積極的な分団部の統廃合を行い、平成19年度をもって支団制を廃止し、現在は８分団40部、女性部を含め42部体制の消防団となっています。

女性第２部（メディカルサポート部）の地域での防災講話

3　那須烏山市消防団の活動

新入団員や新消防団本部役員のため、階級別に火災防御戦術や礼式訓練を行っています。特に新入団員の指導には力をいれており、訓練指導の厳格さには定評があります。また、県消防学校で行う各種教育訓練にも積極的に団員を参加させ、広く教養を身につけた団員教育を行っています。

ポンプ操法訓練については、ポンプ操作は消防団員の常識との考え方から、毎年７月の夏季点検終了時後に全団員を対象に、各ポンプメーカーから指導員（技術者）を招き、基本的なポンプ操作技術

夏季点検時の機械器具点検

総合防災訓練での県消防防災ヘリコプターとの合同消火訓練

の指導を受け、いつでも出動し誰もが操作できるよう万全を期し、一朝有事に備えています。

一旦火災が発生すれば物的損害を免れることはできないので、「火災予防」つまり火を出さない対策が大切であるとの観点から、自治会、女性防火クラブ等の防火に対する講習会等に積極的に参加して指導にあたっています。また、当消防団では、毎年春と秋の火災予防運動期間に各分団で各家庭を訪問し、火の取扱いに喚起しているほか、消防水利の点検を積極的に実施しています。

平成23年３月の東日本大震災では、栃木県で４名の死亡者のうち、本市は２名の死亡者、全壊、半壊等を含め３千棟以上の家屋等の被害がありました。同年９月の台風15号の大雨により川の氾濫等に伴う被害もありました。当消防団も災害時の救助活動や土のう積、巡回等を夜通し行うなど、災害救助活動にあたりました。

本年は、栃木県総合防災訓練が本市を会場に行われ、大規模災害等を実際に体験した教訓を踏まえて行われた防災訓練は、当消防団、広域消防署、県消防防災航空隊、自衛隊とのコラボによる消火訓練を実践さながらに行い、日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮できました。

４　女性消防団の活動

団員確保困難が叫ばれる現在、地域の安全安心を守るため地域の消防防災の中核としての役割を担う女性消防団員の活動が各地に広がってきています。

本市においても女性の入団を促進し、平成22年４月に女性消防隊を結成しました。

厳しい礼式訓練や操法訓練を得て、翌年10月に横浜で開催された「第20回全国女性消防操法大会」に栃木県代表として出場し、見事５位、優秀賞に輝きました。

女性消防団員の活動は、決して現場での消火作業だけではありません。３年目を迎えた今年４月からは２部体制となり、女性第１部として消火活動等を担当、女性第２部として啓発、広報活動、救護等を担当し、その活躍の場を広げています。

５　終わりに

近年､大災害が全国各地で多発しており､何時被害に合うかわからない状況にあります。防災意識の高揚、防災知識の強化、防火思想の普及、また、地域自治会等との連携体制の強化も重要であり、住民の生命と財産を災害から守りぬくための消防団活動に邁進し、安心で安全な地域づくりを目指していきます。

全国第５位、女性第１部（炎姫アルテミス部）の操法披露

「地域から信頼される消防団を目指して」

土庄町消防団　団長　**吉森　正**

１．土庄町の紹介

土庄町は面積74.38㎢、人口約３万人の瀬戸内海に浮かぶ小豆島の西北部に位置し、気候は瀬戸内海式気候で、冬は温暖ですが年間を通して降水量が少ない町です。

産業としては、オリーブ、ごま油、素麺の生産がさかんであり、特にオリーブは国内栽培の発祥地であり「オリーブの島」として広く知られています。

また、ギネスブックに認定されている世界で最も幅の狭い土渕海峡、干潮時、島々をつなぐように砂道が現れるエンジェルロードなどの観光スポットがあります。

２．土庄町消防団の紹介

土庄町消防団は１本部７分団で構成され、平成24年10月現在376名で町民の身体・生命・財産を守っています。車両は消防ポンプ自動車７台、小型動力ポンプ付積載車28台を配備し、防災活動を行っています。

３．土庄町消防団の活動

土庄町消防団では火災をはじめ、台風や集中豪雨による風水害、行方不明者の捜索等多様な活動を行っており、また地区によっては常備消防が到着するのに時間を要することもあり、消防団活動の重要性を感

出初式

部に出場し厳しい訓練の成果を遺憾なく発揮し、見事大会で優勝することが出来ました。過去を含めると優勝2回準優勝2回しており、平成20年には全国大会にも出場しております。

中継送水訓練

４．終わりに

今後、東海・東南海・南海地震等の大規模災害が発生すると予測されています。離島に属する消防団としても災害に対する重要性を個々の団員が再認識することが重要になってきます。訓練を通じて防災に対する知識、技術の向上を図るとともに行政、自主防災組織との関係をより密とし有事の際の連携をスムーズに行うことが今後の課題となっています。地域の安全を預かる消防団として住民の生命・身体・財産を守り、より安心な町づくりに今後とも取り組んでまいります。

じ活動しています。

消防団の活動としましては、毎年１月に挙行する出初式に始まり、新人団員に訓練礼式、器具取扱いの指導を行うとともに幹部の指揮・教育能力の養成を行っている初任者教養、地震、津波災害を想定した避難訓練や土のう積み工法等を実施している防災訓練、林野火災を想定した中継送水訓練、消防ポンプの知識と技術の習得を目的とした機関員講習、火災予防啓発を促す防火パレード、年末夜警などの活動を行っています。また各分団毎、有事の際に即時対応出来るよう機材点検や水利点検を行っています。

災害に関しては平成22年８月に３日間にも及ぶ大規模な山火事が発生しました。車両が通れる道がなく資機材を現場まで搬送するのは困難を極めましたが、消防署と協力し、無事鎮火することが出来ました。

また平成24年度香川県消防操法大会、小型ポンプの

平成24年度　香川県消防操法大会

「安心・安全を守る地域の防災リーダーとして」

美祢市消防団　団長　山田　繁

１．美祢市の紹介

山口県西部のほぼ中央にあり、観光地秋吉台カルスト地形が連なる山あいの街で、豊富な地下資源と温暖な気候に恵まれています。

美祢市の自然の観光資源として、日本最大のカルスト台地「秋吉台」と東洋屈指の大鍾乳洞「秋芳洞」があり、歴史的には、奈良時代に奈良東大寺大仏鋳造の銅の産地として知られています。

現在、美祢市では豊富な地質資源、石炭層（黒）・セメント材料の石灰石（白）・長登銅山跡（赤）により「地質分野の世界遺産」と呼ばれる世界ジオパーク認定へ向けた取り組みを進めています。

市民が「夢・希望・誇りをもって暮らす交流拠点都市美祢市」とし、５つの基本目標「安全・安心の確保」「観光交流の促進」「産業の振興」「ひとの育成」「行財政運営の強化」を強力に推進することにより将来像の「自然と調和し、潤いと活力にみちたやすらぎと交流の郷」の実現を目指しています。

２．美祢市消防団の概要

平成20年に１市２町が合併し美祢市消防団として新たに発足しました。３方面隊、13分団56部隊で構成され定員は1,000名で、

現在958名の団員が所属しています。

平成22年には、地域の自主防災組織を再編して、活動地域などを限定し県内初の機能別部隊を発足しました。

消防車両等の装備についてはポンプ自動車11台、小型動力ポンプ付き積載車41台を配備し、市民の安心･安全を守るべく日夜、活動を続けています。

３．美祢市消防団の活動

消防団の主な全体行事としては、出初式（１月）に始まり、日本最大のカルスト台地、秋吉台の周囲から火を放つ「秋吉台山焼き」

秋吉台山焼き

秋吉台山焼き

（２月）。1,500ヘクタールもある日本一の規模の大きい草原の山焼きは見応え十分で、草原を駆け巡る炎を見ようと、毎年多くの観光客が訪れています。この秋吉台山焼きには約200名の団員が警戒活動しています。

団員の資質向上研修として、新入団員研修（４月）、夏季訓練（７月）のなかで基礎教育・心肺蘇生法・火災等を想定した実践的な訓練を積極的に行い、消防操法大会（９月）に向けた訓練では消防団員における知識、技能のレベルアップの向上に努めています。

女性部隊にあっては火災予防週間中に高齢者の一人暮らし世帯を中心に防火指導（11月）を実施し、防火思想の普及に努め

機能別部隊発足式

ています。

年末夜警（12月）では警戒・広報により日夜地域住民に頼れる消防団として活動しています。

また、住宅用火災警報器の設置率向上のため、全世帯を戸別訪問し設置調査・指導を実施しました。

夏季訓練

４．おわりに

全国各地で地震や自然災害が頻発し、地域社会に甚大な被害と不安をもたらし安全な生活が脅かされています。このため、複雑多様化する各種災害に対応できるよう日頃から知識の向上と訓練を積み重ね技術の習得に励み、万一の災害に備えています。

近年サラリーマン団員の増加に伴い、事業所の消防団活動への協力を通じて地域防災体制がより一層充実される目的で「消防団協力事業所」、21事業所を認定しています。

自分たちの地域は自分たちで守るという強い郷土愛護の精神に基づき、消防団活動をより活性化することによって地域防災を強化し、地域住民の安心・安全を守る地域の防災リーダーとしての誇りを忘れず、全団員が一致団結していく所存であります。

シンフォニー（石川県）

「安全安心のまちづくりの一助に」

野々市市消防団第５分団　分団長
宮川　美保子

人気のない見渡す限り建物の基礎しか残されていない平野、遠くに緑の小高い丘があったが、それは震災のがれきを山積みにした所に草が生えてきたものだった。津波にのみこまれた行政庁舎の中には生々しくも突っ込んだ車がまだ残されていた。１年半前までここに町があり生活があったとはとうてい思えない光景であった。

大学学園祭での消防団PR活動・勧誘活動

私たちは、今年の９月に東日本大震災の被災地である岩手県と宮城県に視察に行ってきました。

震災から１年半たった今もまだ復興にはほど遠い姿でした。

平成８年６月に定員12名で構成された野々市市消防団第５分団が発足して以来16年間、私たちの街では大きな災害は発生していませんが、被災地の姿を目の当たりにし、災害はいつ起きるかわからないと改めて感じました。

発足当初、消防器材はなかったのですが、今では小型ポンプも配備され消防操法大会や出初式の一斉放水では男性分団と一緒に直状放水をしています。

私たちは大きく分けると４つの役割・活動を担っています。

１．火災予防活動

防火パレード、広報、火災防御訓練、年末警戒パトロール、毎月の消防ポンプ点検、一斉放水（出初式、消防操法大会）

２．応急手当活動

救急救命講習会の実施、応急手当普及員資格の取得

3．地域交流活動

総合防災訓練での炊き出し実施訓練、じょんからまつり（郷土芸能）での踊りのコンクール参加　等

4．消防の普及啓発活動

一人暮らしの高齢者宅への消防団の理解と防火訪問（マスコット配布）　等

消防職員と共に一人暮らし高齢者宅の防火診断

最近では、応急手当普及員の資格を活かして、市内のショッピングセンターで行われた救急フェアにおいて、消防職員の補助をしたり、大学の学園祭で消防団活動の広報（パンフレット配布、パネル展示）をしたり、広く一般の方々にも防災意識を深めていただくとともに消防団活動の理解促進を図るよう努めています。

普段は仕事を持った家庭の主婦であり、子育て、家事等もこなしながらの消防団活動となるため、時間も限られていますが、その中でもやりくりして協力して頑張っています。今後もいざというときのために女性ならではのきめ細やかさとソフトで親しみやすい特徴を活かした活動をしていきたいと思います。

また、石川県では全国初の女性消防団員連絡協議会を立ち上げ、年２回の理事会や講演会や視察研修などを実施し、市町単位の横のつながりを深めています。大災害が発生した場合でも女性団員の横のつながりが密であれば相互に助け合うことが出来ると確信しています。

大学学園祭での消防団PR活動・勧誘活動

そして、いざ自分たちの住む街で災害が起こった場合、まず、自分達女性消防団員に何ができるのか、ということを考えていきたいと思っています。

昨年11月に町から市へと発展した野々市市は「住みやすい街」、全国第２位に躍進しましたが、安全安心な住みやすい街として１位となれるようお手伝いしていきたいと思います。

シンフォニー（群馬県）

「ラッパ隊員としての活動」

大泉町消防団　ラッパ隊　団員
牧田　真佐恵

皆さん、こんにちは。私は、大泉町消防団ラッパ隊に所属する牧田真佐恵と申します。

はじめに、大泉町の紹介をさせていただきます。大泉町は「鶴舞う形の群馬県」の南東に位置し、南は利根川を挟んで埼玉県熊谷市と隣接する県境の町です。面積は約17.93㎢と県内で一番小さな町ですが、北関東でも有数の工業の町でもあります。

また、平成24年９月30日現在人口41,011人の内、約15％（6,219人）が外国人の方で、町にはブラジルのレストランやお店が点在し、観光スポットになっています。

大泉町消防団は定員173名、団本部、４個分団、14個部で構成されています。実員163名で、現在、私を含めて２名の女性団員が在団しています。

私は、高校卒業時に当時のラッパ長さんから入団の勧誘をいただき、高校時代のトランペットの経験が少しでもお役に立てればと思い、平成18年７月にラッパ隊員として入団しました。私の所属するラッパ隊は消防団本部付で、現在、団本部員のラッパ長と部長以下９名の隊員が活動しています。ラッパ隊は、毎週金曜日、元消防職員の方を講師に迎えてご指導いただきながら、消防コードのほか、楽曲も取り入れながら練習しています。昔は消防ラッパを使用していたそうですが、私が入団した時にはすべてトランペットになっていて、最近では分列行進のリズムをとるためにドラムも活用しています。

秋季検閲にて

大勢のご来賓の方をお迎えして実施される、秋季検閲、出初式などは訓練の成果を発揮するときです。「部隊集合」「検閲者に敬

礼」などの消防コード、分列行進時のラッパの行進曲は、緊張感の中、調和とリズムに気を配りながら吹鳴・演奏されます。私も微力ですが、ラッパ長の指揮、ベテラン団員のリードのもと、精一杯演奏します。大泉町消防団のラッパ隊活動は、女性団員・男性団員とも同じ訓練をして、式典で吹鳴・演奏しますので、男女の差はありません。

総合防災訓練開始前

入団して、あっという間に５年以上が過ぎてしまいました。その間、ポンプ操法や消火活動の経験はありませんが、消防団でラッパ隊としての活動を通じて、多くの人と知り合いになれたことは､私の財産です。いままで、自分の都合で訓練などに参加できなくて、ご迷惑をおかけした時期もありましたが、現在も消防団でラッパ隊の活動を続けていられるのは、団員のみなさんが寛大な気持ちで支えてくれたおかげだと思っています。

この度、日本消防の「シンフォニー」への寄稿のお話をいただいたときも、「私が寄稿していいのか」という思いもありましたが､この寄稿を期に消防団員として､ラッパ隊員として、精一杯活動していきたいと思います。

模擬火災訓練にて

第23回全国消防操法大会激励交流会開催

財団法人　日本消防協会

平成24年10月６日、東京ビッグサイトレセプションホールに於いて、第23回全国消防操法大会の前夜祭として激励交流会が各都道府県からの出場選手、家族、消防関係者など約1,000名参加の下、稲見総務大臣政務官にご出席をいただき、盛大に開催されました。

秋本日本消防協会会長あいさつ、稲見総務大臣政務官のあいさつに続いて、消防応援団の方々から激励のことばと記念品が出場選手に贈られました。そして、消防団応援歌最優秀作品の後藤夫妻へ表彰状と目録が秋本会長、水前寺清子さんから手渡されました。

また、フォトセッションでは出場選手、消防応援団、消防関係者の写真撮影が行われました。

岡崎消防庁長官の乾杯あいさつ後は、会場内は消防応援団の方々との写真撮影などで終始和やかな雰囲気になり、山形市の餅つき披露が行われ、そして水前寺清子さんの三百六十五歩のマーチの歌唱及び替え歌披露で最高の盛り上がりを見せました。

秋田日本消防協会副会長の閉会のことばで、激励交流会は終了しました。参加していただきました、出場選手、家族、消防関係者の皆様の心に残る一時であったと思います。

日本消防協会　秋本会長あいさつ

稲見総務大臣政務官あいさつ

消防団応援歌表彰式

フォトセッション

菅原文太さんあいさつ

司会の佐々木正洋アナウンサーと
アシスタントの林恵理さん

消防応援団の皆さん

菅原文太さん

水前寺清子さん

黒江透修さん

平野啓子さん

沢田亜矢子さん

葛城ユキさん

小倉優子さん

水香さん

消防団応援歌披露

出場選手明日への一言

山形市の餅つき

岡崎消防庁長官乾杯のあいさつ

秋田副会長閉会のあいさつ

平成24年秋の褒章（消防関係）伝達式

総務省消防庁

平成24年秋の褒章（消防関係）受章者は、87名で褒章別内訳は次のとおりです。

紅綬褒章	4名
黄綬褒章	5名
藍綬褒章	78名
計	87名

受章者のうち、

① 紅綬褒章は、災害現場等において、自己の危険を顧みず人命救助に尽力した者

② 黄綬褒章は、永年にわたり消防機器の販売業務や消防設備保守業務等に精励するとともに、業界の発展に大きく寄与した者

③ 藍綬褒章は、消防団員や婦人（女性）防火クラブ員として永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく寄与した者を対象としています。

○ 伝達式

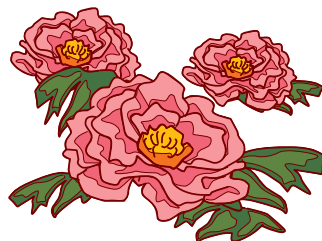
1 日 時 11月13日（火）11時15分～11時45分

2 場 所 スクワール麹町3階「錦華」の間

平成24年秋の褒章受章者（消防関係）

賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）	賞賜	都道府県名	主要経歴	氏名（年齢）
藍綬	北海道	現 網走地区消防組合 網走消防団 副団長	品田　学（64）	藍綬	茨城県	現 取手市消防団 団長	猪瀬　彰（63）
藍綬	北海道	現 網走地区消防組合 女満別消防団 副団長	山田忠正（64）	藍綬	茨城県	現 鹿嶋市消防団 団長	山田　治（62）
藍綬	青森県	現 おいらせ町消防団 副団長	門上　實（65）	藍綬	栃木県	現 小山市消防団 副団長	田村英夫（55）
藍綬	青森県	現 むつ市消防団 分団長	小杉隆義（59）	藍綬	群馬県	現 高崎市消防団 副団長	井田博巳（67）
藍綬	青森県	現 平川市消防団 副団長	相馬　孝（56）	藍綬	群馬県	現 大泉町消防団 副団長	島田金壽（63）
藍綬	青森県	現 大間町消防団 分団長	新田敏夫（66）	藍綬	群馬県	現 伊勢崎市消防団 副団長	福島行孝（69）
藍綬	岩手県	現 滝沢村消防団 団長	岩井雅之（61）	藍綬	埼玉県	現 秩父市消防団 団長	浅見　健（54）
藍綬	福島県	現 中島村消防団 団長	小室正光（59）	紅綬	千葉県	人命救助者	近藤大輔（32）
藍綬	福島県	現 猪苗代町消防団 団長	土屋孝彦（57）	紅綬	千葉県	人命救助者	近藤善信（57）
藍綬	福島県	現 西郷村消防団 団長	德田　進（65）	藍綬	千葉県	現 市川市消防団 団長	鈴木俊一（62）
藍綬	福島県	現 矢吹町消防団 副団長	穂積勝恵（59）	紅綬	東京都	人命救助者	梅沢辰信（42）
藍綬	福島県	現 南相馬市消防団 副団長	山見重信（63）	紅綬	東京都	人命救助者	中村裕貴（21）
藍綬	東京都	現 日本橋消防団 副団長	赤川　進（70）	藍綬	神奈川県	現 川崎市幸消防団 分団長	髙橋克明（63）
藍綬	東京都	現 大井消防団 副団長	飯塚　弘（67）	藍綬	神奈川県	現 横浜市山手消防団 団長	豊島世志男（63）
藍綬	東京都	現 田園調布消防団 副分団長	石井久夫（74）	藍綬	神奈川県	現 横浜市保土ケ谷消防団 副団長	藤巻弥一（66）
藍綬	東京都	現 王子消防団 副団長	榎本清実（63）	藍綬	神奈川県	現 横浜市都筑消防団 副団長	峯岸　昭（64）
藍綬	東京都	現 浅草消防団 副団長	小関栄壽（63）	藍綬	神奈川県	現 横須賀市消防団 分団長	矢澤信男（66）
藍綬	東京都	現 江戸川消防団 分団長	柴田　滿（69）	藍綬	富山県	現 砺波市消防団 副団長	寺田秀則（58）
藍綬	東京都	現 調布市消防団 団長	清水孝夫（59）	藍綬	富山県	現 南砺市消防団 副団長	中嶋紀雄（59）
藍綬	東京都	現 本田消防団 団長	鈴木文康（65）	藍綬	岐阜県	現 八百津町消防団 団長	臼田毓己（67）
藍綬	東京都	現 四谷消防団 副団長	曽川幸太郎（63）	藍綬	岐阜県	現 美濃加茂市消防団 団長	尾石文雄（65）
藍綬	東京都	現 京橋消防団 副団長	松戸純一（70）	藍綬	岐阜県	現 本巣市消防団 副団長	髙橋岩雄（62）
藍綬	東京都	現 武蔵野市消防団 副団長	村雲祐一（59）	藍綬	岐阜県	現 瑞穂市消防団 副団長	棚橋　守（63）
藍綬	東京都	現 小岩消防団 副団長	村瀬光一（59）	藍綬	岐阜県	現 関ケ原町消防団 団長	西村丈太朗（59）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　　名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　　名（年齢）
藍　綬	静　岡　県	現　浜松市消防団 副団長	浅野　哲司（55）	藍　綬	兵　庫　県	現　伊丹市消防団 副団長	永島　健一（65）
藍　綬	愛　知　県	現　名古屋市日吉消防団 団長	安井　賢文（69）	藍　綬	兵　庫　県	現　神戸市北消防団 団長	小西　元八（65）
藍　綬	愛　知　県	現　名古屋市東海消防団 団長	山田　八十八（65）	藍　綬	奈　良　県	現　御所市消防団 分団長	鍵本　幹雄（61）
藍　綬	三　重　県	現　伊賀市消防団 副団長	市川　隆成（60）	藍　綬	奈　良　県	現　東吉野村消防団 副団長	辻本　雅則（56）
藍　綬	三　重　県	現　四日市市消防団 部長	加田　聖二（61）	藍　綬	和歌山県	現　和歌山市消防団 分団長	藤本　善信（65）
藍　綬	滋　賀　県	現　近江八幡市消防団 副団長	稲葉　博（60）	藍　綬	鳥　取　県	現　米子市消防団 副団長	由木　勉（64）
藍　綬	滋　賀　県	現　大津市消防団 副団長	八代　進（63）	藍　綬	島　根　県	現　奥出雲町消防団 団長	安部　正教（63）
藍　綬	大　阪　府	現　千早赤阪村消防団 団長	岡本　善三（73）	藍　綬	島　根　県	現　大田市消防団 団長	中田　正敏（66）
藍　綬	大　阪　府	現　大東市消防団 副団長	北田　敏雄（63）	藍　綬	岡　山　県	現　備前市消防団 副団長	木下　進哉（59）
藍　綬	大　阪　府	現　島本町消防団 副団長	藤田　隆雄（60）	藍　綬	福　岡　県	元　築城町消防団 団長	有永　義正（67）
藍　綬	大　阪　府	現　豊中市消防団 副団長	増山　貞雄（59）	藍　綬	福　岡　県	現　飯塚市消防団 副団長	馬田　廣（62）
藍　綬	大　阪　府	現　門真市消防団 副団長	淀井　和明（71）	藍　綬	福　岡　県	現　岡垣町消防団 副団長	木村　正義（64）

賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　　名（年齢）	賞　賜	都道府県名	主　要　経　歴	氏　　名（年齢）
藍　綬	福　岡　県	現　水巻町消防団 副団長	德永　彌太郎（66）	藍　綬	宮　城　県	現　宮城県婦人防火クラブ連絡協議会 会長	川名　きよ江（78）
藍　綬	福　岡　県	現　大野城市消防団 団長	藤田　正美（58）	藍　綬	佐　賀　県	現　佐賀県女性防火クラブ連絡協議会 会長	森　カヲル（79）
藍　綬	宮　崎　県	現　宮崎市消防団 分団長	川越　正彦（56）	藍　綬	大　分　県	現　大分県婦人防火クラブ連合会 会長	瀧川　智代美（59）
藍　綬	宮　崎　県	現　高鍋町消防団 団長	坂元　嚴男（55）				
藍　綬	宮　崎　県	現　新富町消防団 団長	山口　弘安（58）				
黄　綬	埼　玉　県	現　日信防災㈱ 相談役	武田　迪夫（68）				
黄　綬	東　京　都	現　ホーチキ㈱ 取締役会長	藤本　二郎（67）				
黄　綬	京　都　府	現　㈱大同 代表取締役	拝師　知行（59）				
黄　綬	埼　玉　県	現　㈱マツダ商事 代表取締役	松田　達行（63）				
黄　綬	高　知　県	現　サンボウ防災㈲ 代表取締役	中尾　昭一（64）				
藍　綬	山　梨　県	現　㈳山梨県消防設備協会 会長	饗場　紀典（71）				
藍　綬	沖　縄　県	現　（一社）沖縄県消防設備協会 理事長	金城　稔（60）				

頑張れ！少年消防クラブ

No.57　北多摩西部消防少年団（東京都）

アメリカ空軍大型輸送機C130に搭乗！

北多摩西部消防署　予防課　栗田

北多摩西部消防少年団（団長　山口重行）は８月10日、武蔵村山市と米軍横田基地の「友好クラブ」の協力を得て横田基地を親善訪問し、東日本大震災におけるアメリカ空軍の輸送活動「トモダチ作戦」について調査するとともに、基地内にある消防署などを視察しました。

発災直後から食糧や水などの物資を被災地に送り届けた大型輸送機C130に搭乗し、クルーの説明に耳を傾けた団員達は時折感嘆の声を上げるとともに、国境を越えた災害活動や国際貢献の重要性を認識し、クルー達とも「トモダチ」になることができました。

また、基地内の消防署では、巨大ポンプ車による１分間に１万3000リットルという大量放水を目の当たりにし、そのスケールに圧倒された団員たちからは「わぁーすごい！」「どんな火事でもすぐ消せちゃいそう」の声が上がりました。

平成24年度
防火ポスターコンクール審査結果

生活協同組合　全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では、毎年小学4年生から中学生を対象とした防火ポスターコンクールを行っています。

今年度も各都道府県の支部から選出された作品について、厳正なる審査を行った結果、最優秀作品に広島県福山市立城北中学校3年土屋菜摘さんの作品が選ばれました。

最優秀作品については、平成24年度全国統一防火標語「消すまでは　出ない行かない離れない」を掲載し、11月9日から行われる秋の全国火災予防運動にあわせて防火ポスターとして全国に配布いたしました。

たくさんのご応募ありがとうございました。

平成24年度防火ポスター

最優秀賞
広島県　福山市立城北中学校　3年　土屋　菜摘さん

平成24年度防火ポスターコンクール審査結果一覧

最優秀賞（１名）

広島県	福山市立城北中学校	３年	土　屋　菜　摘さん

優 秀 賞 （２名）

岐阜県	安八町立名森小学校	６年	児　玉　将　克さん
岐阜県	大垣市立赤坂中学校	２年	山　田　直　哉さん

佳　　作（７名）

岩手県	洋野町立角浜小学校	６年	東　山　莉　子さん
宮城県	名取市立那智が丘小学校	６年	沼　澤　伶　心さん
栃木県	足利市立第三中学校	１年	篠　﨑　美　香さん
兵庫県	高砂市立松陽中学校	３年	中野下　朋　美さん
岡山県	瀬戸内市立長船中学校	３年	武　内　裕　城さん
香川県	高松市立大野小学校	５年	山　本　　　憧さん
沖縄県	那覇市立小禄中学校	３年	赤　嶺　響　太さん

優秀賞

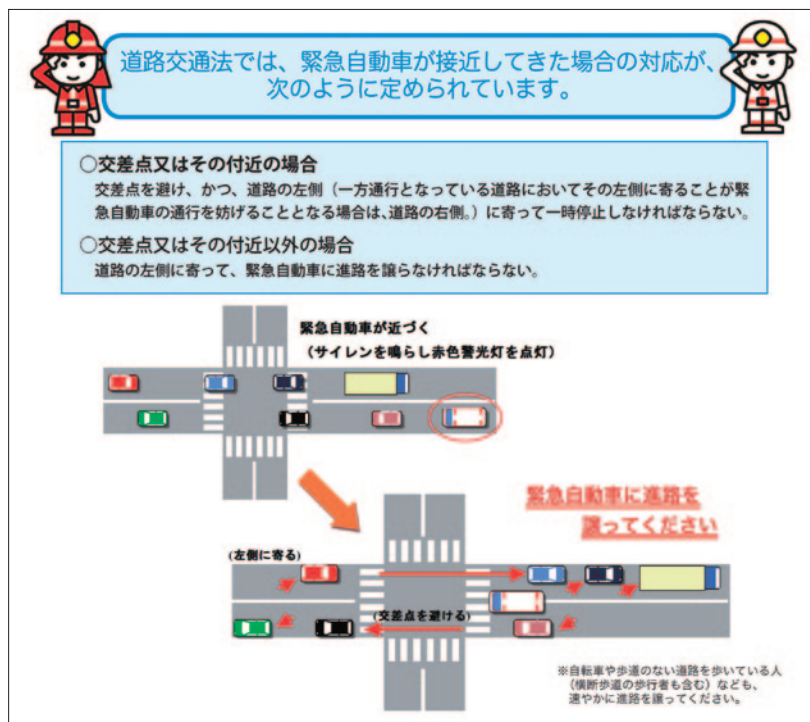
岐阜県安八町立名森小学校
６年　児玉　将克さん

岐阜県大垣市立赤坂中学校
２年　山田　直哉さん

消防自動車や救急自動車の緊急通行に対するご理解とご協力を！

総務省　消防庁　消防・救急課

「自動車やバイクを運転中に、サイレンを鳴らし赤色の警光灯を点灯した消防自動車や救急自動車などの緊急自動車が近づいて来た。」このような場面に遭遇した時、緊急自動車に進路をスムーズに譲ることができるでしょうか。

消防自動車や救急自動車などは、消火活動や傷病者の搬送等、緊急性の高い用務を行うことから、一刻も早く災害現場へ到着する必要があります。そのため、道路交通法のなかで、道路の右側部分に車体の全部又は一部をはみ出して通行することや赤信号の交差点に進入できることなど、多くの特例が認められていますが、緊急自動車がより安全に通行するためには、一般車両の協力も必要不可欠です。

自動車等を運転中に緊急自動車が接近してきた場合は、周囲の状況に注意し進路を譲っていただき、一刻も早く災害現場に到着できるようご協力をお願いします。

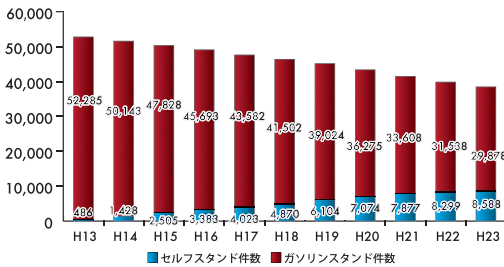
問合わせ先
　消防庁消防救急課　伴
　TEL：03-5253-7522

セルフスタンドにおける安全な給油について

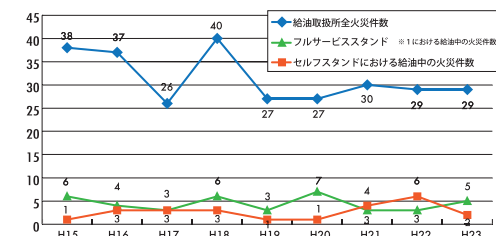
総務省　消防庁　危険物保安室

セルフスタンドの現状

　ドライバーが自ら給油を行うセルフサービス方式の給油取扱所（セルフスタンド）は平成10年４月から認められた比較的新しいガソリンスタンドの形態です。それまではドライバーが自ら給油を行うことは対応する安全対策がとられていないため認められていませんでしたが、セルフスタンドについて検討が行われた結果、一定の安全対策を講ずれば従来のガソリンスタンドと同等の安全性を確保することができることが確認され、セルフスタンドが認められることとなりました。

　近年、ガソリンスタンドの件数は全国的に減少傾向にありますが、これとは対照にセルフスタンドは増加しており、平成23年３月末現在では、8,500件を超えています。

セルフスタンドの安全対策の改正経緯

　セルフスタンドにおいて給油中に自動車の給油口付近で静電気が原因と考えられる火災が発生したことを受け、「火気厳禁」「給油中エンジン停止」「ガソリンの容器への注入禁止」など保安上必要な事項を記載する注意書きに「静電気対策に係る事項」を加えるよう、平成13年に各消防本部に通知しました。

　また、セルフスタンドの火災発生割合がフルサービスのガソリンスタンドに比べると高いことから、平成19年には危険物の規制に関する規則（昭和34年総理府令第55号）を改正し、給油ノズルは、静電気を有効に除去することができる構造とすることや給油中に吹きこぼれたガソリンが顧客に飛散しない措置を講ずること等が規定され、セルフスタンドの設備に関する安全対策を強化しました。

※1・・・従業員による給油が行われるガソリンスタンド

給油取扱所１万施設あたりの給油中における火災事故発生割合

	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年
セルフスタンド	24.0	11.8	7.5	12.3	4.9	9.9	3.8	3.6	5.8
フルサービススタンド	0.2	0.7	0.7	0.7	0.3	0.3	1.2	1.9	0.7

給油中の主な注意事項

　セルフスタンドでドライバーが給油する際には、次の点に十分ご注意ください。

・静電気除去シートなどにより静電気を十分除去すること。
・車に給油する油種を十分に確認すること。
・ライター、たばこ等の火気は使用しないこと。
・ガソリンの容器への小分けは行わないこと。
・自動車又は原動機付自転車以外の水上バイク等への給油は行わないこと。

　その他、計量機に表示されている使用方法、注意事項を必ずお読みください。またご不明な点があれば、計量機付近に設置されているインターホンでセルフスタンド従業員へお問い合わせください。

その他

　セルフスタンドにおける給油に関しては、下記のホームページをご参考に、安全に給油してください。

総務省消防庁：セルフ給油に関する注意事項
http://www.fdma.go.jp/html/new/self_atten.pdf

総務省消防庁：ガソリン等危険物の事故防止について
http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/gasoline/keihatu.html

石油連盟：セルフ給油での油吹きこぼれに関する注意事項
http://www.paj.gr.jp/paj_info/topics/2006/12/19-000282.html

問合わせ先
　消防庁予防課危険物保安室施設係　七條・大盛
　TEL：03-5253-7524

雪害に対する備え

総務省　消防庁　防災課

我が国では毎年、自然災害により多くの尊い人命が失われていますが、近年、大雪となった年には、雪害により多くの方が亡くなっています。特に、平成18年豪雪、平成22年12月から平成23年３月の大雪、昨年11月から本年３月の大雪では、一冬に100人を超える方が亡くなっています。

地域の協力による除雪作業
（提供：山形県尾花沢市）

雪害による人的被害の主な要因としては以下のようなものが挙げられ、除雪作業中の事故によるものが多いという特徴があります。

- ・除雪作業中の屋根、はしごなど高所からの転落
- ・除雪作業中の水路等への転落
- ・除雪機の事故（巻き込まれなど）
- ・屋根からの落雪
- ・除雪作業という重労働による発症

そこで、除雪作業中の事故を防ぐために心がけるべきポイントとして、以下のようなものが挙げられます。

- ・２人以上で除雪作業を行う
- ・はしごは必ず固定する
- ・建物の周りに雪を残して雪下ろしを行う
- ・低い屋根でも油断しない
- ・疲労時は作業しない
- ・作業時は携帯電話を持って行く
- ・命綱やヘルメットを使用する
- ・除雪用具の手入れ、点検をこまめに行う
- ・除雪機の雪詰まりの処理はエンジンを切って行う
- ・晴れの日は屋根の雪がゆるんでいるので注意する

これらの対策は、「よくある除雪中の事故とその対策」（内閣府、国土交通省）にまとめられています。

「よくある除雪中の事故とその対策」
（内閣府ホームページより）

また、近年の傾向をみると、65歳以上の高齢者が犠牲となる割合が高く、全犠牲者のおよそ３分の２を占めています。こうした傾向は、豪雪地帯における高齢化の進展、除雪作業の担い手不足が要因の一つとなっていると考えられます。

こうした状況への対策として、隣近所、自治会、消防機関、自主防災組織など、地域コミュニティの共助による除雪作業を実施できる仕組みや、地域内外のボランティア等の除雪作業の担い手が協力して作業できる仕組みの構築が有効です。

消防庁では、降積雪期を迎えるに当たり関係道府県に対して通知を発出し、人命の安全確保を最重点とする雪害対策に万全を期すよう要請したほか、本年１月にも関係道府県に対して通知を発出し、除雪作業中の事故防止に向けた普及啓発の徹底等を要請しました。

今年もこれから本格的な雪のシーズンを迎えます。雪による事故への備えを怠らず、雪害に強い安心安全なまちづくりを進めていきましょう。

問合わせ先
消防庁国民保護・防災部防災課地域防災係　浦田、岩片
TEL：03-5253-7525

石油ストーブなどの安全な取扱いについて

総務省　消防庁　予防課

本格的な冬の到来に備え、石油ストーブなどの暖房器具の手入れは万全でしょうか。

平成23年中におけるストーブによる火災をみると、全国で1,609件発生し、中でも石油ストーブによる火災は、763件と前年に比べ19件増加しており、全体の47.4%を占めています。

ストーブによる火災の主な出火原因をみると、可燃物の接触・落下、引火・ふく射、使用方法の誤り、消し忘れ、過熱、使用中の給油等が原因となっています。

また、東日本大震災を起因とする電力事情や防災意識の高揚により、平成23年中は100Vの電源が不要である石油ストーブの販売台数が大幅に増加（前年比189%）しており、石油ストーブによる火災の増加が懸念されるところです。

石油ストーブの販売台数の推移

寒い時期を迎えるにあたり、これからストーブなどの暖房器具を使用する機会が多くなります。火災を発生させないよう、特に次の点に注意するよう心がけましょう。

１．使用にあたっての注意事項

⑴　カーテン等がストーブに接触しないように、離して使用すること。

⑵　ストーブの近くに紙、衣類など燃えやすいものを置かないこと。

⑶　ストーブの周囲や上方に洗濯物を干さないこと。

⑷　ストーブの近くでヘアスプレー等を使用しない。また、近くに放置しないこと。

ストーブのまわりに
燃えやすい物がないかの確認を！

ストーブで洗濯物を
乾かすのはやめましょう。

２．使用方法

⑴　取扱説明書をよく読んで、正しい方法で使用すること。

⑵　石油ストーブに灯油を給油するときは、必ず火を消してから行うこと。

⑶　カートリッジタンク式のものは、給油後、タンクのふたを確実に締めること。

３．点火及び消火の確認

⑴　点火後は、炎の調整を行い、正常に燃焼していることを確認すること。

⑵　就寝時、外出時には、必ず完全に消火していることを確認すること。

４．点検・整備

暖房シーズン前には、十分な点検を行い、故障している場合は、販売店等に修理を依頼すること。

５．危険物の保管

⑴　灯油用の容器は金属製のもの、又はポリエチレン製で安全性に係る推奨マーク若しくは認定証が貼付されているものを使用するとともに、必ず栓をしっかり締めて密閉すること。

⑵　保管場所は火気を使う場所から遠ざけるとともに、直射日光を避けた冷暗所とすること。

⑶　地震時に容器が転倒したり、落下物によって容器が破損したりしないようにすること。

６．機器の安全性の向上

平成21年以降、消費生活用製品安全法により、石油燃焼機器が特定製品に指定され、国の定めた技術基準に適合した旨のPSCマークを表示した上で販売することが義務づけられました。

石油ストーブの場合の技術基準は次の3点です。

○カートリッジタンクの口金の安全強化
確実に締めたことが音、目視又は感触で確認できること。

○給油時自動消火
カートリッジタンクを引き抜くと自動的に消火すること。

○不完全燃焼防止強化
使用中に一酸化炭素の濃度が基準以上となった場合、自動的に消火すること。

問合わせ先
消防庁予防課予防係　児玉、古賀
TEL：03-5253-7523

うちの 名物団員

神奈川県

川崎市宮前消防団宮前分団　団員

山影　純子

山影純子さんは、大学を卒業後専門学校に通いながら団活動を続け、去る９月９日に開催された市内８団16チームによる操法大会では、わが分団の２番員として、また、参加選手中唯一の女性として、チームを８位（残念ながらタイムは速かったのですが減点が多かった？）に押し上げる原動力となりました。

日ごろは、控えめで心優しい大和撫子の典型のような人ですが、いざ、災害、操法ともなると、全身から元気があふれ出し頼れる団員に変身します。

群馬県

太田市消防団　第10分団　団員

橋本　直樹

太田市消防団第10分団に所属しながらラッパ隊として活躍している橋本直樹さん（29歳）は、消防団活動はもとより地域活動にも積極的に参加しています。

橋本直樹さん（29歳）は８月14日・15日に行われる「尾島ねぷたまつり」で運行するねぷたの絵師で、太田市にただ一人です。10年前に弘前市の絵師の下で修業し試行錯誤を重ね現在に至ります。

尾島ねぷたは弘前と同じ扇灯籠で、２枚の扇を重ねた形。表を「鏡絵」、裏を「見送り絵」といい、鏡絵は勇壮な戦闘シーン、見送り絵は美女を描くのが一般的です。
「自分たちの街は自分たちの手で守りたい。」その想いで消防団活動を行っていきたい。と熱く語ってくれました。

岐阜県

多治見市消防団　中央北分団　班長

若尾　圭介

多治見市消防団・中央北分団で中心的存在として活躍している若尾さんは、普段は、市内にある虎渓窯で陶芸家として働いており、美濃焼（志野・織部・黄瀬戸）の作陶を通じて美濃焼の魅力を日々追求しています。

朝日陶芸展入選５回、国際陶磁器展美濃入選、中日奨励賞、美濃陶芸大賞などを受賞し、将来が期待される若手陶芸家です。

石川県

野々市市消防団第２分団　副分団長

林　浩陽

野々市市消防団の名物団員は第２分団で副分団長を務める林浩陽さんです。

自動車メーカーのデザイナー、家業の農業を経て、現在は農業法人を経営しています。その経歴を活かしたデザイン感覚で農業に新しいスタイルを確立した功績が認められ、平成４年に農林水産祭農産部門で天皇杯を受賞しました。時を同じくして消防団に入団し、地域防災をも担うようになりました。

その林さんが今一番力を入れていることが「食育」。小学校、幼稚園の稲作体験授業や「世界一分かりやすい食育授業」には、消防ヘルメットに代えて「鏡餅ヘルメット」を被り、子供達に楽しく食と命の大切さを伝えています。食の安全は、地域の安全にも繋がります。子供達の健やかな成長を願って飛び回っています。

長崎県

諫早市消防団　森山支団　第４分団　団員

杉野　伸治

理学療法士の資格を持ち、社会活動で日本オリンピック医科学スタッフ（バレーボール部門）、全日本バレーボール男子U－20メディカルトレーナーとして、アフリカ、ブラジル、イランなど、各国を選手と同行し活動しています。

地元では、消防団や地域活動など率先して活動し、若い団員の盛り上げ役になって頑張っています。

山梨県

身延町消防団　身延第２分団第１部　班長

畑野　顕

日蓮宗総本山身延山久遠寺とその門前町を守る第１部。

畑野顕さんは、“消防愛”に燃える第１部のムードメーカーとして、消防活動を盛り上げるイケメン団員です。

普段は観光の町身延町で、創業100年以上の老舗旅館「いさご屋旅館」を経営し、サッカー、ソフトボール大会など地域のイベントから、２人の子どもの子育てまで、何事にも全力投球のみんなから愛される、イクメン団員でもあります。

香川県

土庄町消防団　渕崎分団　分団長

葛西　孝通

葛西さんは真面目な人柄に加え、責任感が強く37年にわたり献身的に消防団活動を行ってきました。普段は温和な性格ですが、現場活動や行事ごとでは一転して誰よりも大きな声で厳しく分団を統率しています。

また、「地域に貢献したい」という気持ちが人一倍強く、消防団活動の他、地域の様々な活動を先導役となって取り組んでいるため、地域の活性化に大きく貢献しており消防団員はもとより地域の方々からも厚く信頼されております。

そんな葛西さんの今後の目標は「地域との連携を深め、消防団と地域が一体となって活動し誰もが安心して暮らせる町にしていきたい。」だそうです。これからも地域を盛り上げ、守るため、葛西分団長の更なる活躍が期待されます。

山口県

下松市消防団久保分団　部長

数井　忠義

「ポン操バカ」自らそう称する団員がいます。工務店を営む傍ら、団員拝命から28年。小型ポンプ操法をこよなく愛する人間で、現在は指導員として県消防操法大会の優勝を目指し、若手団員の育成に奮闘中です。

趣味は「トローリング」でカジキを追いかけているというのだから驚かされます。黒いお顔に白い歯が光る笑顔が印象的な数井さん。これからも公私共に活躍が期待される名物団員です。

消防団の広場

長崎県「自分たちのまちは、自分たちで守る」

雲仙市消防団
団長
川上　清記

雲仙市は長崎県の島原半島の北西部に位置し、我が国初の国立公園に指定された「雲仙天草国立公園」があり、「風光明媚」で自然豊かな農業と漁業が盛んなまちです。

また、市内には雲仙温泉と小浜温泉の異なる泉質を持つ温泉があり、年間を通じて数多くの観光客が訪れる観光地でもあります。

雲仙市消防団は７支団組織により、人口47,857人、面積206.92㎢を団長以下1,502名の団員で、地域住民の生命、財産を守るべき地域防災のリーダーとして、火災や災害に対応しています。

消防団活動といたしましては、毎年１月に挙行する雲仙市消防団出初式に始まり、新入団員訓練・幹部教養訓練、各支団による消防ポンプ操法大会、春・秋火災予防運動期間中にはパレードや火災想定訓練などを行っています。

平成24年度に開催されました第31回長崎県消防ポンプ操法大会では、小型ポンプの部が第３位、ポンプ車の部が第5位という成績を収めました。選手として出場した団員たちは大会で終わることなく、長期間の訓練で習得した消防技術を各分団に持ち帰り、雲仙市消防団全体の消防技術力の向上に努めています。

なお、雲仙市内の各自治会などで組織する自主防災組織との連携や、新たに立ち上げる自主防災組織への支援などを行い、市民の皆様と共に災害に強いまちづくりに励んでいます。

雲仙市消防団は異常気象が続く昨今、「自分たちのまちは　自分たちで守る」という郷土愛を胸に、先輩方が培ってきた伝統を大切にし、十分な自覚と使命のもとに団員一丸となって、今後も消防技術の向上に努め、雲仙市民の負託に応えられるよう、より一層の努力をしてまいります。

消防署指導による新入消防団員訓練

長崎県消防ポンプ操法大会

公益財団法人消防育英会への ご寄附に対する税優遇措置

（個人が支出する寄付金は、税額控除も受けられます。）

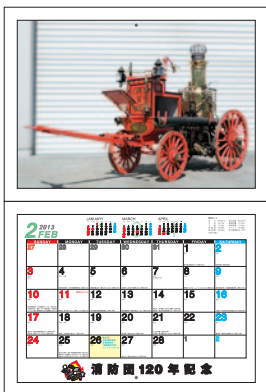
1　個人が支出する寄附金

当会への寄付金は、従前より所得控除が適用されておりましたが、平成24年10月26日に、内閣府から税額控除を適用できる法人である旨の認定がなされましたので、認定日以降の寄付金につきましては、所得控除と税額控除のいずれか有利な控除が受けられるようになりました。

2　法人が支出する寄附金

会社などの法人が当会に対して支出した寄附金については、一般寄附金の損金算入限度額とは別に、別枠の損金算入限度額が設けられています。

この育英奨学金は東日本大震災で殉職した消防団員、消防職員等の遺児の就学を支えます。ご協力、ご支援をお願い申し上げます。

振込先
銀　行　名　りそな銀行（銀行コード　0010）
支　店　名　東京公務部（支店コード　295）
口座番号　普通預金　0078446
口　座　名　公益財団法人消防育英会東日本大震災消防殉職者遺児育英奨学基金
（コウエキザイダンホウジンショウボウイクエイカイヒガシニホンダイシンサイショウボウジュンショクシャイジイクエイショウガクキキン）
口座名の略称「東日本大震災消防育英基金」
（ヒガシニホンダイシンサイショウボウイクエイキキン）

消防団120年 記念カレンダー

平成25年(2013年)

平成25年は明治27年に消防団がスタートしてから120年！この間の消防ポンプ、自動車の発展を写真で見ることができる記念カレンダー！(過去の災害記録を記載)
平成25年限定のカレンダー！販売価格は1,000円(税込)で在庫がなくなり次第販売終了となりますので、お早めに!!

▼販売価格

1,000円(税込)

▼お申し込み方法

消防団員・職員の方は所属で取りまとめて、都道府県消防協会にお申し込み下さい。

日本消防会館でも販売中！
(http://www.nissho-jyouhou.jp/nissho-hall/index.html)

上記以外の方は、お電話、又は株式会社シグナルOSのホームページからお申し込み下さい。
http://www.signalos.co.jp
(http://www.signalos.co.jp/Firecorps_120_calendar.html)

▼掲載内容

■1月【主写真】腕用ポンプ 愛媛北伊予村 【補助写真】上湧別消防組 ■2月【主写真】蒸気ポンプ 青森県弘前市 【補助写真】青森県五所川原消防団所蔵 ■3月【主写真】ガソリンエンジンポンプ 一関(現存放水可) 【補助写真】福岡 長津町消防組 ■4月【主写真】アーレンフォックス 四谷消防博物館 【補助写真】徳島県 徳島市消防組 ■5月【主写真】スタッツ 四谷消防博物館 【補助写真】北海道 音更消防組 ■6月【主写真】シボレーポンプ車 京都市消防局 【補助写真】埼玉所沢消防組 ■7月【主写真】ダッジポンプ車 茨城県下館市消防団 【補助写真】青森県 脇野沢村消防組 ■8月【主写真】くろがね号 小田原市消防本部所蔵 【補助写真】北海道 幌泉村消防組(三輪消防車) ■9月【主写真】ポンプ車現役 大槌町消防団 【補助写真】全国消防操法大会 ■10月【主写真】気仙沼市消防団 ミニ消防車 【補助写真】女性操法大会 ■11月【主写真】所沢市消防団車両(CD-1型) 【補助写真】消防操法大会(男性) ■12月【主写真】多機能型消防車両 【補助写真】積載機材
※「消防防災関連週間」を色分(黄色)けして表記してあります。

※販売終了時は財団法人日本消防協会のホームページでお知らせします。

発行元：財団法人 日本消防協会

お申し込みは裏面のFAX、お電話、ホームページをご利用下さい。
消防団120年記念カレンダー 検索

TEL. Free Call 0120-607-444 受付時間／9:30 17:30 ※携帯 PHSからもご利用できます。 ■休業日／土·日·祝日
FAX Free Call 0120-34-4976 24時間受付 ■裏面の専用注文書をご利用下さい。

Signal
http://www.signalos.co.jp
E-mail:info@signalos.co.jp
株式会社シグナルOS
〒733-0833広島市西区商工センター4丁目4-7

平成24年度　全国統一防火標語

「消すまでは　出ない行かない　離れない」

12月の日本消防協会関係行事

12月14日（金）	女性消防団員リーダー会議

編　集　後　記

平成24年もあっという間に残すところあと１ヶ月となりました。皆さま今年の目標に掲げたことは無事達成できましたでしょうか？まだの方は残りの期間でラストスパートしましょう。

さて、皆様はインフルエンザワクチンを接種されましたか？今年の冬のインフルエンザワクチンは、A型が２種類、（カリフォルニア/7/2009（H1N1）・ビクトリア/361/2011（H3N2））B型が１種類（ウイスコンシン/1/2010）の３価ワクチンで、A/カリフォルニア/7/2009（H1N1）は、「新型インフルエンザ」と呼ばれていましたが、平成23年度から「季節性インフルエンザ」扱いとなっているそうです。インフルエンザの流行期は通常12月から翌３月で、ワクチンの効果が出現するまでに２週間程度かかるため、流行前の予防接種がいいそうです。予防接種される予定で、まだ接種されていない方は早めの接種をおすすめします。

また、これからの季節は、暖房器具を使用する機会も多くなり消防団の方も出場機会が増える時季でもあります。寒い時季での活動は、体が冷え動きが鈍くなって活動時に思わぬミスや怪我をすることがあります。防寒対策は万全にして、業務に従事されるようお願いします。　（K・S）

購読募集

購読を希望される方は、㈶日本消防協会へお問い合わせください。

※　年間購読料（送料込）　2,388円

（問合せ先）　総務部企画担当　03−3503−1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Ｅメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十五巻第十一号
平成二十四年十一月五日印刷
平成二十四年十一月十日発行
編集人　川手　晃
発行所　㈶日本消防協会
東京都港区虎ノ門二－九－十六
電話　〇三（3503）一四八一（代）
印刷所　日本印刷株式会社
東京都文京区湯島三－二十－十二
電話（3833）六九七一（代）

消防人の火災共済の補償が増額されました
「1000倍補償を1500倍補償にＵＰ」

Ｂ型火災共済　（加入口数は５口から25口まで）

10口の場合　掛金1000円で
火 災 共 済 金　100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金（全損で）20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円（500円単位）で加入できます。』

Ｃ型火災共済　『加入口数は、最高200口』

火 災 共 済 金　2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金（全損で）400万円を600万円に増額しました。
※　風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※　加入にあたり、組合員となっていただくために出資金が必要になります。

ひまわりしているか
ひのようじん

生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局　（財）日本消防協会内　　　支　部　都道府県消防協会内

消 防 互 助 年 金

－ 将来の自分の為の積立年金制度です －

消防互助年金は、消防団員・消防職員の皆さまの老後の安定と福祉の向上を図るために、（財）日本消防協会が、第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。

65歳まで積み立て可能な、公的年金の補完ができる制度です。

消防団の退団後・消防職の退職後も継続できます。

消防互助年金の説明に担当者がお伺いします。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

●各市町村の消防事務担当係
●都道府県消防協会

（日本消防協会ホームページ）

●㈶日本消防協会　年金共済部
●生活協同組合全日本消防人共済会

〒105-0001　東京都港区虎ノ門 2-9-16
日本消防会館　TEL.(03)3503-1481～5
http://www.nissho.or.jp

R100

毎月一回十日発行
平成二十四年十一月十日発行
日本消防
第六十五巻第十一号